

「オキカ」始動

沖縄初のカード型IC乗車券「オキカ」の利用が20日、那覇市の沖縄都市モノレール(ゆいレール)で始まった。併せてQRコードを印字したQR乗車券も導入され、改札機に触れるだけで入場できるようになった。当面は従来の磁気券も使えるが、30日から非接触式に全面移行する。オキカは来年4月から沖縄本島の路線バス4社にも導入され、ゆいレールとの乗り継ぎ割引も始まる。オキカは、カードを返却し、引き続き利用も始まる。



「オキカ」の運用開始式を開く沖縄都市モノレール関係者ら。20日午前、ゆいレール那覇駅。

まず、ゆいレールから 県内限定、来年4月路線バスも

それは戻ってくる保証金500円を含む千円から購入できる。県内限定で全国では使えない。カードを運用する沖縄ICカードの仲吉良次社長(沖縄都市モノレール社長)は、新システムを初めて利用した那覇市の女性社員は「便利になる。以前は東京に住らしている。離島船船やタクシー、電子マネー機能への拡張も視野に入れている。常にも使える。全国共通のカードでつなげられればもっとよかったです」と話した。ゆいレールは全面移行を前に既存のプリペイドカードの利便性のより一層の向上を払戻しにも応じていく。那覇空港第2

